

他学年への 発信

京都府京都市立近衛中学校 3年生

個人で、自分の見つけた課題を探究。 探究の成果を1、2年生に向けて発表し、全学年での学びにつなげる!



1、2年生からの近衛EXPO開催への応援メッセージ。



←生徒は同じテーマで
集まり、一人ずつ発表し、
意見交換を行う。

学校ブログで
取組を発信。→

🌱 日々更新された研修 10月27日 3年生 リサーチミーティング

大勢の方のテーマは「すべての中から、未来社会2025 大勢の方で、すでにいかに多くつくるところで、いかに企業がSDGsが、いかに実現しています。

3年生の授業で行って、発表、和歌山に行きますが、大勢で万単位でワークショップがなるといふこと、大勢で参加しています。今回、日本加藤建設がジュニアEXPO2025の普及員募集で、そのSDGsの活動の推進としてワークショップをやるという機会をいただきました。「未来のつなぎ」推進部から「SDGs」に共感していただくことから、授業の中で、授業中の発表、授業後の発表と、授業中の発表も参加して、今後の活動で活用させていただきます。

和歌山では、企業として参加していることや、SDGsの活動の推進、和歌山で企業からのSDGsも、とても楽しくして参加しています。

今年度、和歌山で、中学校の活動ができることを、1、2年生にも、発表していきます。楽しみにしてください。

ねらい

SDGsに関する課題を自分事として捉え、自分の地域や他学年と自身のつながりを意識することを通して、学びを深める。

取組概要

- リサーチミーティングで企業から学んだことをもとに、SDGsに関して、自分が深めていきたいテーマや課題を設定し、個人探究を実施。
- 3年生の中で発表するだけでなく、1、2年生に向けて発表する機会を設定。

ここがポイント!

- 探究の内容は、関西SDGsユースアクションに応募することを事前に告知。生徒のモチベーションアップに。
- 取組の様子や生徒の発表内容は、学校ブログを使って、他学年の生徒、保護者や地域の人にも共有。自分たちの学びが地域や他学年につながっていることを意識させるとともに、1、2年生もSDGsや、共創の考え方について知る機会を創出。

地域連携

京都府京都市立大宅中学校 3年生

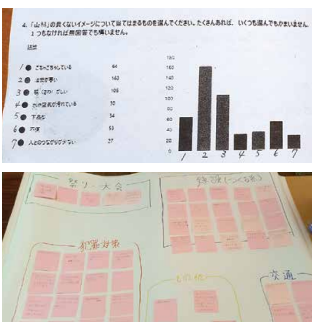
自分たちの住む山科区の地域活性化にフォーカス! 『山科大作戦』として地域社会へ具体的にアイデアを提言!



事前のアンケートはICTを活用し学年で共有。



地元区役所に向けてのプレゼンは全学年参加。



説得力のある改善案をつくるため、アンケートや意見の整理を行う。

ねらい

「自分の住んでいる山科区の活性化」をテーマに地元区役所に提案することを通して、自分の住む地域について興味・関心を高め、地域を大切にしたい意欲を育む。

取組概要

- 授業リサーチミーティングを実施後、取り組むテーマを決めるために、自分たちの住んでいる町についての意識調査のためのアンケート実施。その後、グループごとに仮説と課題を抽出し改善案を検討。改善案を具現化するためにどうすればよいか、提案書を作成。
- 各クラスで優秀賞を選び、代表グループが地元区役所職員に向け、実際にプレゼンテーションを行う。

ここがポイント!

- 活動の導入として、意識調査を行うことで、地域について自分の今の考えを整理するとともに、課題を自分事として捉えるきっかけをつくり、学習意欲を高めた。
- プレゼンに向け、校内アンケート・インタビューの実施、グループごとに長所短所についての意見交換会を実施することで、限られた時間の中で改善案のブラッシュアップや説得力のあるプレゼン資料作成につなげた。

地域や社会へ働きかけ、自ら発信できる力を育む。

地域人材活用

兵庫県神戸市立太田中学校 2年生

“行動すること”をテーマに地域人材活用で学びを深める。



ねらい

“行動すること”をテーマに、地域の課題解決のための取組を行うことを通して、地域を共創することのできる生徒の育成をめざす。

取組概要

- 授業5自分たちなりのSDGsアイデアを考える一環として、地域の人に話を聞いたり、街を車いすで移動したりする活動を実施し、地域の実情や課題を実感。自分たちにできることとして「車椅子ルートマップ」を作成する活動につなげた。
- 作成の過程で「だれでも使いやすい地図とは」「住みやすい地域とは」を考えることで多様性に対する理解や、制度や道・建物などのハード面を整備するだけでは課題が解決しないことに生徒自身が気づき、マップ完成後も多様な企業に話を聞き、「誰一人取り残さない」ためにできることについてリサーチを重ねる。

ここがポイント!

- 地域の現状や「合理的配慮」について学ぶための講話や車いす体験のための授業、車いすルートマップのアプリ開発については、地域人材に協力を依頼。これまでの職場体験や、地域交流のつながりも生かし、地域人材から学び、学習を地域に還元する仕組みを整備した。

新聞も使った分析とアイデア検討

兵庫県西宮市立浜脇中学校 全学年

全学年で取り組む3年間の学び。地域のためにできることを多様な視点で考え、活動。



ねらい

多様な人や情報に触れ、それらを整理・分析することを通して、自分の住む街を住みやすい場所にするために、何をすべきか考え、街を共創する。

取組概要

- 1年生から3年生まで、SDGsに関する学習の取組を重ねて3年目。ジュニアEXPO2025の授業1、2を通して、SDGsの考え方を理解すると共に、社会科の授業の中でSDGs関連の新聞記事を取り上げ、社会の実情や立場による意見の違いの分析や自分の考えを表現。
- 1年生では、共に学び合うプロセスを重視し、互いのアイデアを尊重しながらグループでの議論を続け、アイデアをブラッシュアップ。
- 各クラスで投票で選ばれたアイデアを校内ジュニアEXPOで学年全体で保護者に向けプレゼンテーションを行った。

ここがポイント!

- 学年が変わっても学習を続け、2年生で職業体験、3年生で修学旅行とも連動させ、自身の生き方やSDGsの学びとしてさらに探究していく。3年間同じテーマで学習を続けることで、発達段階に合わせ、多様な視点で学習に取り組み、思考力の深まりや広がりにつなげている。

社会科 持続可能な開発目標 SDGsプレゼンテーション

「住みやすい街 アイデアミーティング」

1. SDGs 持続可能な開発目標
①「住み続けられるまちづくり」をテーマにあなたの「アイデア」を考えよう。
2. NIEノートに、最近の記事、ニュースよりテーマに合うもの、取り組みなどを見つけ、調べる。感想を書こう。
3. その記事から、各自でさらなるアイデアや未来への提言を考えよう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

11 住み続けられるまちづくりを

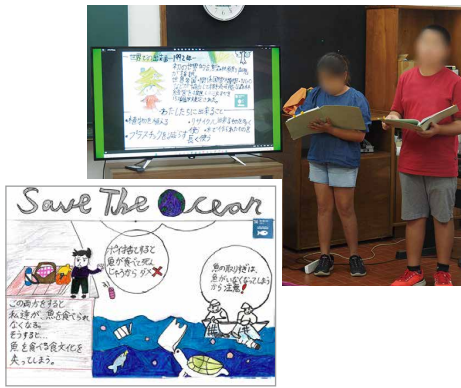
UNESCO 教育に新聞を

地域や社会へ働きかけ、自ら発信できる力を育む。

パラグアイ共和国アスンシオン日本人学校 小学校4年生～中学校3年生

国を越えて
課題を実感

さまざまな背景をもつ児童がSDGsの考え方を知り、 地域課題に目を向ける。



ねらい

SDGsの考え方を知り、パラグアイに生活する自分だからこそ気づく課題を見つけ、自分にできることを考える。

取組概要

- 通常版の教材を活用し、自分にできることを提案することを目標に、小学生と中学生が合同で授業を実施。
- 最後の授業では、校内での発表会を行い、「キッズアンバサダー」の称号を授与し、2025年大阪・関西万博やSDGsの取組に引き続き注目していくことを確認した。

ここがポイント!

- 中学部生徒は、JICAを訪問し、スタッフに自分たちの提案をプレゼン。その後、スタッフよりパラグアイという国が抱える問題や日本との違いについて話を聞くことを通して、世界の実情や、一人一人の行動が大切であることの実感につなげた。